

ヨコハマトリエンナーレ 2014

YOKOHAMA TRIENNALE 2014

第2回 記者会見資料

展覧会タイトルとコンセプト、会期発表

日時：2013年5月21日(火) 16:00～17:30

会場：横浜美術館 円形フォーラム

本資料についてのお問い合わせ ※広報用画像のお申込は、下記宛先までご連絡ください。

横浜トリエンナーレ組織委員会事務局（担当：武井）
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1 横浜美術館内
TEL 045-663-7232 FAX 045-681-7606
E-MAIL press@yokohamatriennale.jp
URL <http://www.yokohamatriennale.jp>



展覧会タイトル：

ヨコハマトリエンナーレ 2014

「華氏451の芸術：世界の中心には忘却の海がある」

Yokohama Triennale 2014

“ART Fahrenheit 451: Sailing into the sea of oblivion”

会期：

2014年8月1日(金) — 11月3日(月・祝)



忘却の海へと向かう冒険の旅

ヨコハマトリエンナーレ2014がめざすのは
芸術的冒険の可能性を信じるすべての人々
そして、大胆な世界認識を持ちたいと望む
すべての人々と共に
「芸術」という名の舟に乗り込み
「忘却」という名の大海へと
冒険の旅に出ることである

「華氏451の芸術」というタイトルは、言うまでもなく、レイ・ブラッドベリ作のSF小説『華氏451度』に由来している。いわゆる焚書がテーマの小説で、本を読むことも持つことも禁じられた近未来社会が舞台となっている。

1953年作とは思えないくらい、現代社会を予見している見事だが、それ以上に興味深いのは、これが「忘却」の重みについてあらためて考えさせられる小説だという点である。

物語の後半、「本になる人々」の集団というものが登場する。一人ひとりが一冊ずつ本を選び、それをまると記憶しようとする。つまり焚書へのレジスタンス（抵抗）として、本という物質を記憶という非物質に置き換え、本の精神のみを隠し持とうと試みる。

「本になる人々」は本を禁止する社会からの亡命者達であり、また上述のように本を非物質な記憶に置き換えようとしているため、その存在と行為の両側面において、現実社会の表舞台には決して現れることのない、不在の人々となる（＝生きている痕跡をこの世から消滅させた「忘却の人々」たらざるをえなくなる）。ところがこの「忘却の人々」にこそ、膨大な本の記憶がたまり込んでいるというのが、ブラッドベリの小説がもたらす、「忘却」に関する重い教訓なのである。

「忘却」とは、記憶されざる記憶がたまりこんだ、ブラックホールとしての記憶のことである。

人類はこれまで想像を絶する量の情報（や「もの」）を廃棄（＝忘却）し続けてきた。記憶化されないまま廃棄された情報（や「もの」）は、それよりもさらに膨大だろう。死者や、これから生まれる「未来の記憶」とでもいうべき未生の命も、記憶されざる記憶としての「忘却」かもしれない。検閲や弾圧によって消滅させられたり、表舞台に出られなくなったものもあるだろう。

語らないもの、語ってはならないもの、語りえぬもの。見たくないもの、見てはならないもの、見えにくいもの。とるにたらないもの、役に立たぬもの。それら記憶世界にカウントされる値打ちもないと判断された無数の記憶されざる記憶達にも思いを馳せてみよう。そしてこんなふうに痛感してみよう。

世界(宇宙)は、そのほとんどが「忘却」のブラックホール(あるいは、広大で奥深い海)によって満たされている。それに比べれば、記憶世界など「忘却の海」に浮かぶちっぽけな島にすぎない。

「記憶」から「忘却」へと、世界認識のための軸足を、真逆に置き換えてみる。すると、社会や暮らしや人生の諸相が今までとはガラリと違って見えてくる。その手応えや驚きや切実感が表現となる。そういう芸術的態度が確かにある。それらを多くの人々とわかちあうこと。ヨコハマトリエンナーレ2014における「忘却」というテーマは、そういったものである。忘れられた歴史(美術史)の掘り起こしや懐古趣味には無関係でありたいと願っている。

ヨコハマトリエンナーレ2014 アーティスティック・ディレクター
森村泰昌



©Morimura Yasumasa + ROJIAN

森村泰昌(もりむら やすまさ)

1951年、大阪市生まれ、同市在住。京都市立芸術大学美術学部卒業、専攻科修了。

1985年、ゴッホの自画像に扮したセルフポートレート写真を発表。以後、一貫して「自画像的作品」をテーマに、美術史上の名画や往年の映画女優、20世紀の偉人たちに扮した写真や映像作品を制作している。

1988年、第43回ヴェネチア・ビエンナーレ、アペルトに出品したほか、国内外で多数の展覧会に出品している。

主な個展に、「美に至る病―女優になった私」(横浜美術館、1996年)、「空装美術館―絵画になった私」(東京都現代美術館、他2館、1998年)、「私の中のフリーダ/森村泰昌のセルフポートレート」(原美術館、2001年)、「美の教室、静聴せよ」(熊本市現代美術館、横浜美術館、2007年)、「Requiem for the XX Century. Twilight of the Turbulent Gods」(La Galleria di Piazza San Marco、ヴェネチア、他ニューヨーク、パリに巡回、2007、2008年)、「なにものかへのレクイエム―戦場の頂上の芸術」(東京都写真美術館、他3館、2010、2011年)など。文筆活動も精力的に行っており、近著に『森村泰昌「全女優」』(二玄社、2010年)、『まねぶ美術史』(赤々舎、2010年)、『対談集 なにものかへのレクイエム―20世紀を思考する』(岩波書店、2011年)など。

2006年度京都府文化賞・功労賞、2007年度芸術選奨文部科学大臣賞、2011年に第52回毎日芸術賞、日本写真協会賞・作家賞、第24回京都美術文化賞の各賞を受賞。同年、秋の紫綬褒章を受章。



開催概要

展覧会タイトル:

ヨコハマトリエンナーレ2014

「華氏451の芸術：世界の中心には忘却の海がある」

Yokohama Triennale 2014

“ART Fahrenheit 451: Sailing into the sea of oblivion”

会 期: 2014年8月1日(金)ー11月3日(月・祝)

開場日数: 89日間 ※休場日: 第1・3木曜日(計6日間)

アーティストック・ディレクター: 森村泰昌(もりむら やすまさ)

主会場: 横浜美術館 横浜市西区みなとみらい3-4-1

新港ピア(新港ふ頭展示施設) 横浜市中区新港2-5

主 催: 横浜市、(公財)横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会

※事業の総称および組織名は「横浜トリエンナーレ」(横浜=漢字表記)、第5回展の事業名は「ヨコハマトリエンナーレ2014」(ヨコハマ=カタカナ表記)となります。

交通アクセス

横浜美術館

みなとみらい線(東急東横線直通)「みなとみらい駅」下車、5番出口より徒歩5分。
JR線および横浜市営地下鉄線「桜木町駅」下車、「動く歩道」を利用、徒歩10分。

新港ピア(新港ふ頭展示施設)

みなとみらい線「馬車道駅」より徒歩13分。





これまでの開催実績

開催年	2001年(第1回)	2005年(第2回)	2008年(第3回)	2011年(第4回)
テーマ/ 展覧会タイトル	メガ・ウェイブ —新たな総合に向けて	アートサーカス [日常からの跳躍]	TIME CREVASSE タイムクレヴァス	OUR MAGIC HOUR —世界はどこまで知ることができるか?—
ディレクター/ キュレーター	[アーティストティック・ディレクター] 河本信治 建島 哲 中村信夫 南條史生	[総合ディレクター] 川俣 正 [キュレーター] 天野太郎 芹沢高志 山野真悟	[総合ディレクター] 水沢 勉 [キュレーター] ダニエル・バーンバウム フー・ファン 三宅暁子 ハンス・ウルリッヒ・オプリスト ヘアトリクス・ルフ	[総合ディレクター] 逢坂恵理子 [アーティストティック・ディレクター] 三木あき子
会期 (開催日数)	9月2日～11月11日 (67日間)	9月28日～12月18日 (82日間)	9月13日～11月30日 (79日間)	8月6日～11月6日 (83日間)
主会場	[2会場] ・パシフィコ横浜展示ホール ・横浜赤レンガ倉庫1号館	[1会場] ・山下ふ頭3・4号上屋	[4会場] ・新港ピア ・日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK) ・横浜赤レンガ倉庫1号館 ・三溪園	[2会場] ・横浜美術館 ・日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK)
参加作家数	109作家	86作家	72作家	77組(79作家)/1コレクション
総事業費	約7億円	約9億円	約9億円	約9億円
総入場者数(有料入場者)*	約35万人(約15万人)	約19万人(約16万人)	約55万人(約31万人)	約33万人(約30万人)
チケット販売枚数	約17万枚	約12万枚	約9万枚	約17万枚
ボランティア登録者数	719人	1,222人	1,510人	940人
主催者	国際交流基金 横浜市 NHK 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会	国際交流基金 横浜市 NHK 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会	国際交流基金 横浜市 NHK 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会	横浜市 NHK 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会 共催:(公財)横浜市芸術文化振興財団

*入場者数は延べ人数

横浜トリエンナーレ組織委員会 (2013.5.21 現在)

横浜トリエンナーレ組織委員会	
名誉会長 代表	林 文子(横浜市長) 澄川喜一([公財]横浜市芸術文化振興財団理事長) 松本正之(NHK会長) 木村伊量(朝日新聞社社長)
委員 委員長	逢坂恵理子(横浜美術館館長) 中山こずゑ(横浜市文化観光局長) 風谷英隆(NHK事業部長) 町田智子(朝日新聞社企画事業担当) 櫻井友行([独法]国際交流基金理事)
外部有識者	高階秀爾(大原美術館館長) 建島 哲(京都市立芸術大学学長) 宮田亮平(東京藝術大学学長)
アーティストティック・ディレクター(AD)	森村泰昌
オブザーバー	佐藤 透(文化庁長官官房国際課長)
監事	渡辺好史(税理士)

事務局	
開催本部長	矢野修司(横浜市)
事務局長	帆足亜紀([公財]横浜市芸術文化振興財団)
事務局次長	富士田美枝子(横浜市) 天野太郎([公財]横浜市芸術文化振興財団) 福山浩一郎(NHK) 帯金章郎(朝日新聞社)